

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393600055		
法人名	有限会社 フロンティア		
事業所名	グループホーム勝央		
所在地	岡山県勝田郡勝央町植月中2423-1		
自己評価作成日	令和3年2月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=3393600055-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季の行事合わせた食の提供を大切に、日々の生活が穏やかに過ごしながらかホームでの生活を楽しんで頂ける様に工夫しています。
認知症になっても生まれ育った地域で、地域の方との交流を大事に支援しています。
出来なくなった事に目を向けるのではなく、出来ている事を継続していけるようなケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いや健康維持を心がけた支援に努めている。居室にポータブルトイレを置き、そこで排泄をしている利用者がいた。運動を兼ね、トイレを使用するよう声を掛け、付き添う等の支援を重ねた結果、ポータブルトイレを使用する必要が無くなった。その後、転倒による入退院後、また居室のポータブルトイレを使用するようになったが、居室をトイレ近くに変更し、再度声掛けや付き添うことで、またトイレでの排泄が出来るようになった。初めての看取りが行われた。県外に住む家族が面会に訪れてくれた際は、医師から利用者の状況を説明してもらった。寂しくないようこまめに居室へ行くようにしたり、他の利用者も顔をのぞかせたりしてくれていた。初めての看取りだったが、医療と連携が図れていたの、不安なく看取ることができた。家族も、看取ってくれた事に感謝してくれた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、自覚と責任感を持ち、理念に沿った対応を心がけて、実践している。	職員は、理念に掲げる「優しい心と思いやり」を持ち、楽しく穏やかに過ごせるよう支援している。コロナ禍で、外出も面会も出来なくなり楽しみが減っているため、体操をしたり歌を歌ったり、行事を豪華にするなど工夫をしている。	職員会議で一度理念を議題に取り上げたことはあるが、管理者の考えを再度伝える機会を設けて欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は、地域の保育園・小学校などの慰問もあったが、この2年間はコロナ禍の影響で行っていない。安定したら再開したい。地域の文化祭にご利用者が作った作品等を展示している。	コロナ禍ではあるが、2週間毎にボランティアが来て、玄関に花を活けてくれている。また、老人クラブが花の苗を持参してくれるので、花壇に植えている。今年は、地域の文化祭が開催された為、利用者と職員が作成した壁画や塗り絵を展示し、地元の人たちに見てもらえる機会ができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は中学生の職場体験・地域の役員研修・地域の文化祭など、機会がある毎に、認知症の理解をしていただいたが、現在はコロナ禍のため、行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため中止していたが、令和4年2月21日から町役場の方のみ招いて再開している。4月からは正常な形での開催をしている。	運営推進会議は、民生委員、町内会長、老人会、役場、家族の人が参加し開催されていたが、現在は中止している。来年度は、再開したいと考え、手始めに今年の2月に役場の職員のみに参加してもらい実施した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ対策等を含め、細かい業務に関することまで相談できる関係を保っている。	今年の2月に運営推進会議を実施し、事業所の取り組みを伝える機会ができた。役場の担当者からは、勝央町初の認知症カフェを開催予定のため、協力要請があった。開催を実施した場合は、協力する話し合いをした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、身体拘束適正化委員会を3か月に1度開催し、その内容をミーティングで伝達し身体拘束廃止への理解を深めている。	身体拘束をしないケアの実践に努めている。「帰りたい」と言われれば、気分転換に歩いたり、思いを聞き共感したりしている。自分の指を噛む利用者には、冷え防止を兼ねて毛糸の手袋を着用してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会で虐待防止についても話し合いをおこなっており、その内容をミーティングで伝達し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に利用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行い、運営規程・重要事項説明書などの説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できるだけ、運営推進会議に参加していた だき、意見を求めるようにしている。	運営推進会議が開催されていた時は、家族も参加してくれていた ので、意見や要望を聞ける機会があった。利用者の様子を伝える機会はあるが、なかなか要望迄はくみ取れていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期だが管理者や会社本部が職員面談を行い、職員の意見を聞いて運営改善につなげるようにしている。	管理者が交代してから日は浅いが、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けている。利用者の支援内容について、職員の意見を聞く様になっている。社長も頻繁に事業所を訪れてくれるので、木の伐採、雨樋の掃除等を要望として伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望などを優先している。資格取得には協力し、資格が取得できるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質の向上、認知症の理解など、職員に内部、外部の研修参加を進めている。業務上でのトレーニングにも力をいれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町が開催する地域密着型サービス管理者会議に管理者が定期的に参加し同業者との交流の機会を持っている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人から困っている事や、希望をたずねながら、寄り添い馴染みの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや、困っていることを聴きながら、思いにより添うよう、より良いサービスの向上に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なケアが行えるように情報収集し、状態に応じては、他の福祉施設を検討して頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持てる能力を発揮してもらい、人生の先輩として助言をいただきながら、できることを一緒にしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子や生活の様子をお伝えしている。また体調に変化があるときは、その都度連絡している。通院介助などできるだけ家族の協力を得て情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍である為、外部の方との交流ができていないが、早い段階で面会の制限等を解除できる事を期待している。	コロナ禍の為、面会は居室の窓越しで携帯電話を活用し会話をしてもらっている。請求書を送付する際は、添え状に写真を掲載し、様子を伝えるようにしている。近所の人が、面会に来てくれたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	そっと、職員が間に入り、利用者同士のより良い関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られても困らないように、情報提供に努めている。年賀状での挨拶を行い自然な形で繋がりが切れないようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から本人の意思を汲み取るようにしている。意思の疎通ができないときは、家族と相談しながらより良い方法を見つけるよう努めて対応している。	職員は利用者の様子をよく観察し、洋服を着る順番、腕時計の穴の位置等、各々の要望を把握し対応をしている。常に何かをしたいと希望する利用者には、趣味の習字やちぎり絵、洗濯物たたみ等をお願いしている。寂しがり屋の利用者には、出来るだけ共有空間に出てもらう工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーを尊重しながら、生活歴を尋ねて家族や本人が納得できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズム、日常の過ごし方、その日の状態の把握に努め、その能力に合わせて作業などを一緒に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを尋ねながら、家族の要望や意見を尊重し、思いが実現できるよう努めている。モニタリングは、職員全員で行い、より良いケアの反映ができるよう計画書の見直しを行っている。	半年毎にカンファレンスを実施し、利用者の現状を話し合い、介護計画のサービス内容について問題ないかどうかを検討している。課題があれば議題に挙げ、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに、バイタル・食事・水分量・排泄の様子・生活の様子や、エピソードを記録している。職員間で情報を共有しより良い介護計画の見直し・実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の実情に合わせて、通院や個人的必要物品の購入など、相談しながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍である為、地域との交流は積極的 にできてない。いずれはできる状態にもどり たい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居後も変更しないで、馴 染みの医師の訪問診療を受けている。かか りつけ医には、職員も相談・助言を受けてい る。	以前からのかかりつけ医が、各々月2回往診 してくれている。通院は家族に依頼し、利用 者の様子を家族に伝え、医師へ説明しても らっている。医師から、毎食後のバイタルを 図るよう指示があり、次回はその記録を持参 してもらう予定。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	訪問看護師による、週1回の訪問を受けて います。変化に応じて緊急対応、電話での 相談も受けて下さっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入院時には、日常の生活や経過などを詳細 に連絡し、対応が適切に行えるようにしてい る。又、家族が遠方である場合などはホー ムで対応する事もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	重度化指針、看取り指針に基づいて本人や 家族の望みをかなえられるように配慮し、 ホームでの対応が可能な範囲を理解してい ただき、誠実な対応に努めている。	入居時に、看取りの方針を説明している。重度化 した際は、再度家族の要望を確認している。去年 初めての看取りが行われた。家族が面会に訪れ てくれた際は、医師から利用者の状況を説明して もらった。状態が変化すれば、直ぐに医師や看護 師に連絡し、連携を図りながら支援に取り組ん だ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルに沿って適切な対 応が出来るように、ミーティング等で話し 合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につけ るとともに、地域との協力体制を築いている	隣のホームとの合同の避難訓練を実施し、 全職員で災害時の対応を理解している。地 域の消防署・消防団にも協力を依頼し、実 情を把握していただいている。消防設備事 業者には、適切な器具の使用法などの指導 をしていただいている。	年に一度は、消防署の指導の下、避難訓練 を実施している。避難訓練の際、居室の名札 を外し利用者に持ってもらった。名札が外さ れていれば、避難した事が目視できるので、 良い案だと消防職員から感想をもらった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、情報収集に努め、本人の思いを大切にし、自己決定しやすい言葉かけ、さりげない介護に努めている。	丁寧な言葉がけをするよう心がけ、自尊心に配慮している。嫌がる支援は無理強いしない。例えば、散髪や洗髪等を拒否する場合は、対話を心がけ、納得してからの支援にしている。嚥下状態が悪い利用者が、ブレンダーを嫌がる場合は、細かく刻む等の工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や表情から本人の希望を尋ねながら、いろいろな選択肢を提案し、自己決定を促している。自己決定ができないときも職員の都合を押し付けないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ職員は待つ姿勢でケアを行っている。その人らしい暮らしや、普通の生活を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定のできる方には、その日の衣類を決めていただいている。訪問散髪なども利用し、実情に合わせて行っている。身だしなみに関心が持てるよう雑誌などを見ながら、声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食事を提供しており、献立を立てる時は食べたい物をリクエストして頂いています。	日頃から、食べたい物を尋ね献立を立てている。誕生日には、本人の食べたい食事とデザートを開いている。利用者から、ケーキ屋とケーキの種類を指定されればそこまで購入に行っている。パン食の日を設け、複数の種類を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックし記録している。食欲や体重の増減を見ながら、食事の量を調整している。献立や調理を工夫し、感想を参考に満足ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。能力に合わせて声かけをしながら、介助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導表をつけて、一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、トイレへ誘導介助を行っている。夜間は、利用者の様子を見ながら誘導介助を行っている。	利用者の様子を見ながら声を掛け、排泄の自立支援に努めている。居室にポータブルトイレを置き、そこで排泄をしている利用者がいた。運動を兼ね、声を掛けたり付き添ったりする等の支援を重ねる事で、トイレで排泄する事が出来るようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のリズムを把握し、水分が十分摂れるよう工夫したり、食物繊維が多い食品や献立の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全に配慮して、入浴の時間がリラックス出来るようにしています。	一日に入浴する人数を少人数にし、一人ひとりの要望に沿った支援をしている。入浴を拒否する利用者も居るので、声を掛け納得してもらってから、誘導をしている。髪が濡れるのを嫌がる利用者には、ドライシャンプーをする等無理強いはいしない様になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムに合わせて休憩や入眠ができるように環境を整えている。安眠に向けての生活のリズムを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの能力に応じて服薬介助を行っている医師と相談しながら飲みやすいように粉砕するなど工夫している。薬の変更や状態は、全職員に申し送り医師と連携して状態の改善に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて役割を持って頂き、達成感を味わうことができるように、得意分野の仕事を一緒にしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍であるため、医療機関受診以外は外出していない。	以前は、近所を散歩したり、子ども神輿が訪れるのを玄関前に椅子を置き見学したりしていた。家族の協力の下、ノースヴィレッジで小旅行を楽しんだこともあった。現在は、「散歩に行こう」と誘うと賛同の返事のみで、ほとんどの人が外へ出たがらない。	気候の良い日は、ベランダでおやつを食べる等、外気に触れる機会を検討して欲しい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内で個人で金銭管理することは原則ないが必要に応じて買い物支援等をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話をつないだり、希望されるときは電話をかけることもある。住所を記入をして、手紙を書くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は、いつもボランティアにより、季節のお花がいけてある。居心地の良い空間づくりに努めている。また、浴室、脱衣場等は清潔に保たれています。	毎朝時間を決め、手摺などを消毒し、感染対策に努めている。少しでも楽しんでもらえるよう、職員が自宅に咲いている桜などを持ち込み、花見をしている。また母の日には、家族から贈られた花を借り、母の日会をした。テレビで戦争や地震など、悲しい話題の報道があれば、チャンネルを変更するようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった人同士が、テーブルを囲んで話し合ったり、お互いの居室を訪問するするなど自由にすごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い出の品や、作品を飾ったり、居心地の良い空間づくりに努めている。又、自宅で使っていた、馴染みのテーブル、椅子を持参されています。	自宅から使い慣れた家具等を持ち込み、寛げる空間作りに努めている。毎月、自分で塗ったカレンダーも飾っている。シーツ交換時は、定位置に置かれている時計、リモコン、耳かき、パット等を、必ず同じ位置に戻すようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりに合わせた安全な環境にしている。衣類など出しやすいように、整理整頓を行っている。居室には、目線の高さで名札をかけている。		